福井県立恐竜博物館紀要 15：99–100（2016）
© by the Fukui Prefectural Dinosaur Museum

報　告

国際シンポジウム「恐竜の繁殖」および日本古生物学会 2016 年年会・総会開催報告

平成 28 年 6 月 24 日（金）～26 日（日）の 3 日間，福井県立大学永平寺キャンパスにおいて，国際シンポジウム「恐竜の繁殖」および日本古生物学会 2016 年年会・総会が開催された．福井県での古生物学会の開催は，福井県立博物館（1987 年），福井県立恐竜博物館（2002 年）に次いで 3 回目となった．本会は，恐竜の卵化石および繁殖を主に専門とする海外の研究者中心に 7 名の講演者によるシンポジウムと古生物学会の年会・総会の 2 つに分けられる．24 日は福井県立大学交流センター講堂，25 日～26 日は福井県立大学共通講義棟を会場とした．学会参加者総数は 264 名（スタッフ含む）であった．

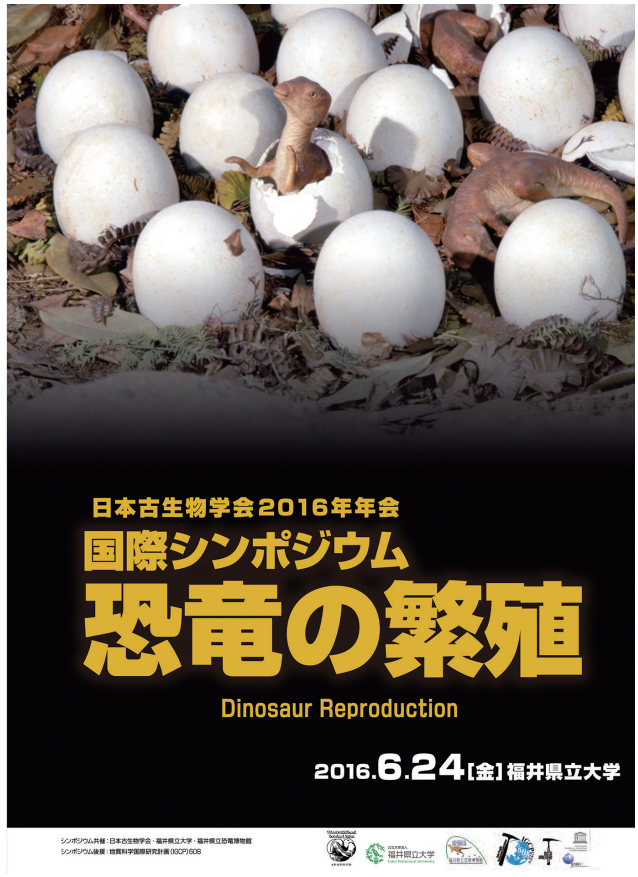
また，26 日には恐竜博物館において，2 名の外国人研究者による普及講演が行われた．さらに，古生物学会化石友の会会員を中心とした野外恐竜博物館ツアーも行った．福井県立大学で行われたシンポジウムおよび年会・総会は，東　洋一特任教授を委員長とする福井県立大学恐竜学研究所教員が主となって運営を行い，恐竜博物館での行事は博物館主体で行われた．

国際シンポジウム「恐竜の繁殖」と総会

国際シンポジウム「恐竜の繁殖」（Dinosaur Reproduction）は，日本で初めて行われる恐竜の卵化石を中心としたシンポジウムであった．日本古生物学会・福井県立大学・福井県立恐竜博物館の共催，IGCP（地質科学国際研究計画）608 の後援により，海外から 5 名の研究者を招待し，合計 7 件 8 名の講演があった．福井県立大学交流センターにある講堂で開催され，コンビナーは恐竜学研究所東　洋一特任教授と宮田和周准教授が務めた．聴講者総数は 169 名であった．

本シンポジウムは，通常の古生物学会のシンポジウムと異なり，学会会員でない一般聴講者も無料で聴講できる形式で行われたが，講演はすべて英語のため，講演要旨を日本語要約した冊子を配布し，恐竜の卵化石の基礎知識なども書き添えた（第 1 図）．古生物学会会員でも，恐竜の卵化石の研究については馴染みが少ないため，本冊子に加えた基礎情報は役に立ったと思われる．

シンポジウムは午後 1 時から開始し，今井拓哉研究職員（福井県立恐竜博物館）の導入から始まり，三枝春生（兵庫県立人と自然の博物館），田中康平（カルガリー大学）両氏は篠山層群から発見された卵化石について報告し，金　幸生氏（浙江自然博物館）は中国，特に浙江省の恐竜卵化石について紹介した．休憩を挟んで，ミゲル・モレノ＝アザンザ氏（ヌエバ・デ・リスボン大学）は発見例が少ない白亜紀の鳥盤類卵化石，ダーラ・ザレニツキー氏（カルガリー大学）によるオヴィラプトロサウルス類の巨大卵化石，マリエラ・フェルナンデス氏（アルゼンチン国立科学技術研究協議会）はアルゼンチン産の卵化石，最後はデイヴィッド・ヴァリッキオ氏（モンタナ州立大学）が獣脚類恐竜から鳥類への繁殖様式の進化について講演を行った（第 2 図）．



第 1 図．シンポジウム配布用冊子の表紙．一般参加者のために日本語訳を併記し，発表に出てくる専門用語の解説も掲載した

第 2 図．シンポジウムでのヴァリッキオ氏による講演の様子

今回のシンポジウムは，鳥盤類と竜盤類の卵化石および繁殖方法の進化について紹介する内容で，恐竜の卵化石全

般とその進化を知ることができた．このように卵化石の研究者が日本において一堂に会することは少なく，本シンポジウムは非常に有用であったと言える．

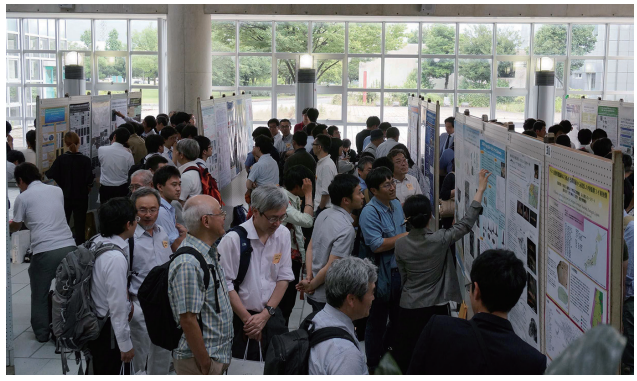
シンポジウム後，同会場にて総会が開催された．総会では，当館佐野晋一主任研究員らが学術賞を受賞し，授賞式が執り行われた（第3図）．

第3図．佐野晋一氏の表彰の様子

一般講演

福井県立大学共通講義棟の大講義室（107, 108, 109号室）を口頭発表会場とし，同じく1階のアトリウムをポスター会場とした．口頭発表57講演，ポスター発表56講演，高校生ポスター3講演，緊急ポスター報告1講演があり，一般講演数は合計117であった．そのうち当館研究職員が筆頭講演者としての発表は口頭発表が5講演（第4図），ポスター発表が4講演，共同講演者としての発表は5講演あった．口頭発表において，福井県の古脊椎動物関係の5講演（当館研究職員以外の講演も含む）は25日午後3時30分からのセッションにまとめられており，理解を助けたものと思われる．ポスター発表では，会場となるアトリウムで十分な通路が確保できたため，多くの参加者が集まり活発な議論が行われていた（第5図）．

第4図．口頭発表の様子



第5図．講義棟アトリウムで開催されたポスターセッション．

夜間小集会

25日の一般講演終了後の午後5時20分から，平山　廉氏（早稲田大学）を世話人とする「久慈層群玉川層の地質と古生物について」と，野下浩司氏（東京大学）を世話人とする「3D計測学」の2件の夜間小集会が行われた．いずれの会場も盛況で，各会場50名以上の参加があった．

普及講演

26日午後2時より，恐竜博物館講堂にて，シンポジウム講演者のヴァリッキオ氏とモレノ＝アザンザ氏による一般向けの講演が行われた．本講演は一般向けということもあり，当館職員による通訳もおこない，参加者は94名（スタッフ，講演者含む）であった．

野外博物館見学

26日の午後3時より，化石友の会会員を中心とした学会参加者を対象に野外博物館見学ツアーを行った．午前中は大雨が降っており開催が心配されたが，午後からは天気が回復した．ツアーは通常どおりにナビゲーターが案内するもので，当館での取り組み方法を見学してもらった．参加者は23名で，博物館関係者や研究者なども含まれていた．

運　営

本会は，福井県立大学が主会場として開催され，開催期間中，JR福井駅と福井県立大学間のシャトルバスを運行した．24日夜には夜間小集会に合わせて最終バスを準備した．また，最終日には博物館行きのバス，博物館から福井駅へのバスも運行した．

本会の開催にあたり，福井県，福井県立大学，福井県立恐竜博物館および関係各位には，ご助言およびご協力をいただいた．ここに厚く感謝を申し上げる．

柴田正輝
（福井県立恐竜博物館・福井県立大学）